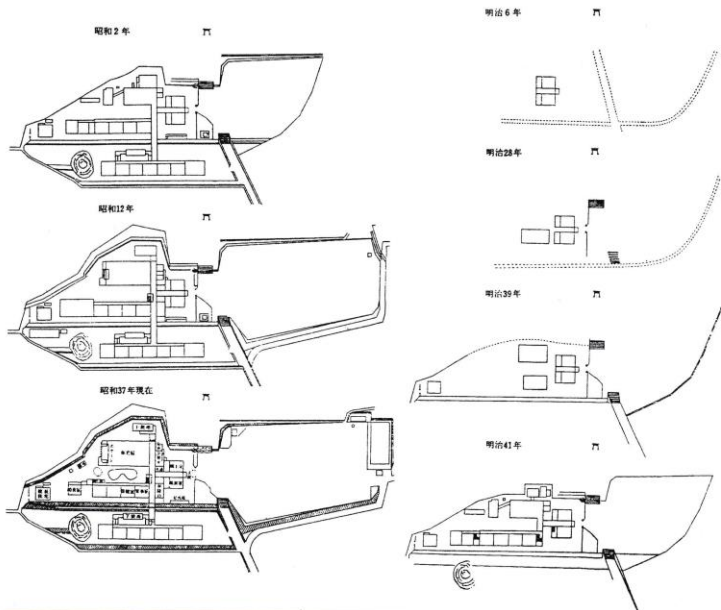


座光寺小学校の校舎はどのように変わってきたの？

～写真でつづる校舎の移り変わり～

座光寺小学校は、1872年（明治5年）6月に開校し、今年までに136年という長い歴史を刻んできました。この間、校地は如来寺から、麻績の里、北本城跡へと移り、校舎や校地も児童数の増加や学ぶ内容などに応じられるように、住民が熱意を持って工夫し努力を続け、増築を行ってきました。その変化のようすを写真を中心にたどってみます。



旧座光寺小学校の校地・校舎の移り変わり図

初めの学校「筑摩県第32小校」が如来寺に開校（明治5年6月）

明治政府は、人が立派な生き方をするには学問が必要であるとして、学校を作ること強く勧めました。座光寺では、主だった人たちが集って開校準備を進め、明治5年6月如来寺（元善光寺）を借りて開校しました。

麻績学校校舎を新築し「麻績小校」と改名する（明治7年4月）

学校が発足したけれど、建物もなく、運営資金も足りず、寺子屋とあまり変わらなかつたので就学する者も少なくありました。そこで、学校世話人が、学校を作ることを決めました。

校地をどこにするか、建設費をどうするかなどの問題に加えて、若い人たちが望む舞台建設と学校建設の兼ね合いなど多くの困難がありました。学校建築を具体化することで話がまとまりました。そして、校地や、建築資材・資金が村中から寄付され、多くの村人が建設にかかり完成させました。当時の筑摩県権谷（今の県知事）に、「郡下一大学校」と言われたほど、一階は舞台、二階は学校として使うために様々な工夫が施され、村人の心こもった、立派で美しい建物でした。

麻績学校校舎は、その後、必要に応じて内部は改築されましたが、いつも小学校の中心でした。現存する校舎では県下最古のもので、1885年（昭和60年）長野県指定されています。

体操場新築される（明治28年）

この頃、外国との戦争に備える気風が強まり、強い体をつくるための体操場が必要であるとの機運が生まれ、体操場が作られました。この時、本館（麻績学校校舎）は少し前へ出されて現在地に移されました。また、「麻績の里舞台板」はこのとき植えられたものであると言われています。

第一次校舎・校地拡張（明治31年）

一裁縫場・大石垣ができる

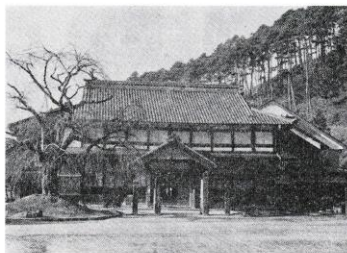
学校制度の改革により、児童数が増え増築の必要に迫られ、体操場を奥に移転し、裁縫場と教員住宅の建設を行いました。そのために、校地を広げる必要が生まれ、教育環境を整える考えもあって、今の支所の建物の後ろの大石垣を作りました。

なお、このとき作った、裁縫場は、1833年（昭和8年）今の宮の前会所のあるところへ移され、役場庁舎として新しい支所や公民館ができるまで使われました。

第二次校舎・校地の拡張（明治42年）

一ニ階造り8教室の新校舎と新体操場新築一

1907年（明治40年）、学制が変わって、義務教育が6カ年になり、その上に高等科2年を置くことになったので、教室が不足しました。裁縫場は奥へ移転し、古い体操場は壊し、大石垣



改築前の本校舎（麻績学校校舎）



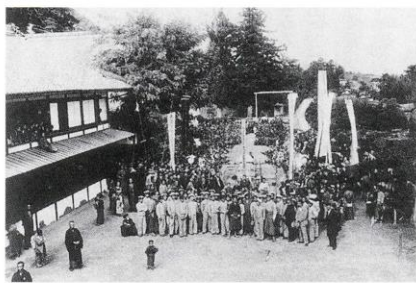
本校舎の棟瓦（麻績小校）



板



本校舎の戲



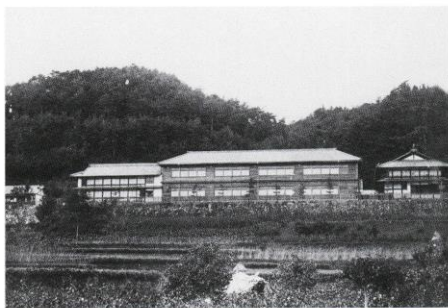
裁縫所と麻績学校校舎（明治38年）

を作って校地の余裕ができた場所に、本格的な二階造りの8教室の校舎と新体操場が新築され、近代的な学校に生まれ変わりました。

第三次校舎・校地拡張（昭和3年）

—運動場の拡張と下段に新校舎完成—

子どもたちの人数が増え、将来教室が足りなくなることが予想され、校舎の増築と広い運動場を作ることになりました。並木沢を暗渠にし、運動場を拡張し、その工事で余った土を今の公民館の建つ土地に埋め、二階建て12教室の新校舎を作ると、立派な大石垣が見えなくなると、他所へ校地を求める意見もありましたが、現地へ新築することになりました。



明治42年頃の小学校校舎



昭和3年新築校舎

旧座光寺小学校の校地・校舎ほぼ完成（昭和12年）

旧体操場を南側へ移転したあと、裏山を削り用地を拡張し、そこへ御手町小学校のものを参考にして、当時としてはモデル的な新体育館を作りました。裏山を削り取った土砂は運動場拡張に使い、運動場の東側の大石垣もこの時整備されたものです。

この工事と合わせて、児童の昇降口や上厕所の移転改造、また、児童の憩いの場として中庭と池も作られ、城地区に移転するまでの旧校舎の姿はほぼ定まったと言えます。

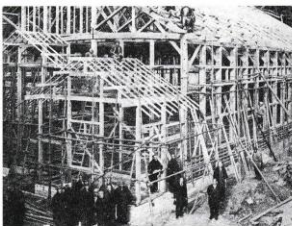
高陵中学校として開校しました。

同じ年、高陵中学校に移された古い体操場の跡地に給食室が作られました。また、昭和31年、プールが校庭北側に完成しました。この年、町村合併により、座光寺村立座光寺小学校は、飯田市立座光寺小学校となりました。

その後の移り変わり

昭和22年、教育基本法が公布され、小学校6年・中学

校3年の就学が義務付けられました。旧校舎を使用して座光寺中学校が開校しました。体育館・運動場・特別教室は共有で、不自由な学校生活だったので、翌23年から中学校の建設が検討され、上郷村と組合立中学校を建設する事になり、昭和26年4月座光寺・上郷両中学校が統合して



新体育館の棟上（昭和12年）



拡張された校庭の大石垣（昭和12年）



110年の歴史を閉じる旧校舎全景（昭和59年）

小学校 北本城の高台に新築移転（昭和59年）

昭和52年から取り組んだ多くの人々の努力が実り、城地籍の北本城跡に、新座光寺小学校の白亜の校舎が建築され、移転しました。旧小学校校舎は、舞台校舎・体育館・収蔵庫を残して取り壊され110年歴史の幕を閉じました。

下段に、公民館・飯田市座光寺支所が建築され、その後、竹田人形館建設に伴い、舞台校舎を残し、旧座光寺小学校の総ての建物は取り壊されました。



校舎跡地（昭和61年3月）



完成間近の新校舎全景（昭和59年）



現校舎玄関